

第5学年 社会科の実践

1 単元名 未来を支える食料生産「米づくりのさかんな地域」 (全12時間 本時10時間目)

2 単元目標

- ・我が国の稲作が、自然条件を生かして営まれていることや、その生産にかかわる人々の工夫や努力によって支えられていることを理解するとともに、地図帳や統計などの各種の基礎的資料を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・稲作にかかわる人々の働きを多角的に考える力、稲作にかかわる課題を把握して、これからの稲作の発展について考える力、考えたことを説明する力を養う。
- ・我が国の稲作について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して我が国の産業の発展を願い、我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

3 「ひびき合う三の丸の子どもたち」をめざすための指導の工夫

研究課題・・・子どもが解決したい問題をもち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成
手だて・・・子どもの願いや思いの育ちを見とった単元構想と授業づくり

高学年ブロックテーマ「仲間への理解、自立する自分」

- ・仲間を理解しつつ、自分の思いも大切にする姿
- ・新しい価値観にふれ、自分を再構築する姿

〈聴く・話すについての指導〉

聴く・話すについては、日々教師からの話や子ども同士の話で、聴き方や話し方の指導を行っている。

聴くことについては、友達の意見を聴く力はあるが、それに対して近くの子と話を始めたり、特定の子との応酬になったりし、話合いが長引いて上手く進まなかったりすることがある。そこに、教師がファシリテーターとして話を進めたり、話のつなげ方を伝えたりしている。

聴く時は「目を合わせて聴く」「自分の考えと関連させて聴く」ことを意識させている。「目を合わせて聴く」に関しては、教師が常々目を合わせながら話し、子どもにも目を合わせて聴くように伝えている。「自分の考えと関連させて聴く」に関しては、自分の考えとの相違点を踏まえて聴くことを意識したり、話を聴いて良いと思ったことはメモしたりする習慣を少しずつ身に付けている。

話すことについては、教師に向かって話したり、黒板やスクリーンばかりを見て話したりする児童が多く、聞き手を意識することが難しい。そのため、聞き手の方を向いたり、原稿やタブレットの位置を変えたりして、聞き手に意識をするように指導を続けている。

〈これまでの関わり合い・ひびき合い〉

児童同士が関わり合い、ひびき合えるよう、なるべくグループや友達同士での話し合いを取り入れている。はじめは、仲の良い友達同士の意見交換にこだわって普段関わりの少ない友達との話し合いに抵抗感があつたが、少しずつグループ活動を増やして、クラスの誰とでも話し合いを進められるようになってきた。また、全体の話し合いでは、意見を繋げて進めることが難しかったため、例を挙げて、「〇〇さんの意見に賛成です。」「〇〇さんの意見に付け足しです。」といったように、前の人の意見にリレーのように繋げられるように意識させている。

クラスみんなでひびき合うことを目指していくために、自分の考えをしっかりとめさせることに加えて、「聴く・話す」の土台を大切に指導していきたい。また、教師が話し合いをリードしすぎず、児童が中心となって、自分たちで問題や疑問を解決していけるような姿を目指していきたい。

4 単元と指導について

〈単元について〉

本小単元では、「米づくりのさかんな地域」として「新潟県魚沼産コシヒカリ」と「小田原市産はるみ」を取り上げ、稲作に関わる社会的事象を学習することで、各県の自然条件との深い関わりや、食料生産が人々の工夫や努力によって支えられているということを感じさせていく。また、現状を知ること、課題を把握し、人々の工夫や努力により焦点化することができるようにしていく。

今回取り上げる「新潟県魚沼産コシヒカリ」は、知名度も高く、家庭でもよく食べられている米の品種である。同時に、「小田原市産はるみ」を取り上げて比較することで、味の違いに気づき、なぜ味がこんなにも違うのかという疑問を持たせる。その疑問から、育て方や気候・自然条件の違い、農家の工夫や努力、思いにも気づくことができる。

〈指導について〉

導入では、「新潟県魚沼産コシヒカリ」と「小田原市産はるみ」を品種を伝えずに食べ比べをする。「コシヒカリ」の程よい硬さに香りのよい味と「はるみ」の柔らかく粘り気のある味の違いに気づき、「なぜこんなにも味に違いがあるのだろうか？」という疑問から学習を進めていく。子どもたちからは、育てている場所や気候、育て方、こだわりや工夫、肥料や水、種、機械、品種改良などが異なることが理由に挙げられると予想する。その予想から詳しく調べていくうちに、新潟県の方が生産量が大幅に多いこと、気温や地形といった自然条件が異なること、「はるみ」はキヌヒカリの弱点を克服するために品種改良をしていること、「コシヒカリ」は農薬を抑えて育てているが「はるみ」は農薬を使わず肥料も有機質肥料を使用していることなど、多くの違いに気づくことができると考えられる。

新潟県産「コシヒカリ」は農薬や機械を使用して大量生産している一方、神奈川県産「はるみ」は無農薬にこだわって生産量を制限していることを踏まえたうえで、子どもたちに「どちらの米づくりの方がよいのだろうか？」という問いを投げかける。子どもたちは、今一度「コシヒカリ」と「はるみ」の米づくりの相違点に注目して考えることができるだろう。それぞれの米づくりの特色や農家の工夫について多角的に考え話し合い、どちらの農家も同じ思いがあることに気づく姿をひびき合いの姿とする。

単元の後半には、どちらの農家も「おいしいお米を食べてほしい」という思いがあることを踏まえたうえで、実際に新潟で「コシヒカリ」を作っている農家と神奈川で「はるみ」を作っている農家に話を聞く機会を作る。これまで調べたことでさらに知りたくなったことや農家の努力や工夫、課題について実際に聞くことで、子どもたちに切実感をもたせることができると考える。その切実感から、「私たちができることはどんなことだろうか？」という問いについて考えをさらに深められるようにしていく。

【単元目標】

- ・我が国の稲作が、自然条件を生かして営まれていることや、その生産にかかわる人々の工夫や努力によって支えられていることを理解するとともに、地図帳や統計などの各種の基礎的資料を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・稲作にかかわる人々の働きを多角的に考える力、稲作にかかわる課題を把握して、これからの稲作の発展について考える力、考えたことを説明する力を養う。
- ・我が国の稲作について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して我が国の産業の発展を願い、我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

どちらのお米がおいしいかな？①

Aは新潟県産「コシヒカリ」、Bは小田原市産「はるみ」を用意して、食べ比べる。

- ・「コシヒカリ」はいつも食べている味と似てる。
- ・「コシヒカリ」の方が食べやすくて私は好き！
- ・同じお米なのに味が全然ちがうね。
- ・作り方が違うのかな？
- ・小田原のお米っておいしいんだ！初めて知った！
- ・「はるみ」の方がもちもちでおいしいよ！
- ・なんで味や食感がこんなに違うんだろう？
- ・作り場所が違うからじゃない？
- ・コシヒカリとはるみはどのように作っているのかな？

コシヒカリとはるみはどのように作られているのかな？②③④⑤⑥⑦

新潟県産コシヒカリ

小田原市産はるみ

どんな気候や場所で育てているんだろう。

どんな気候や場所で育てているんだろう。

- ・気温が低いね。
- ・豊かで広い土地だね。
- ・雪解け水があるから、大量の水で育つんだね。
- ・昼と夜の温度差が大きいと栄養たっぷりらしいよ。

- ・気温が高いね。
- ・山に囲まれた土地だよ。
- ・酒匂川からきれいな水がきているんだね。
- ・気温差は新潟程はないんじゃないかな。

米作りに適した自然条件に着目して考えることができるようにする。

どんな育て方をしているのかな。

どんな育て方をしているのかな。

- ・1年間の米作りの流れがわかった。
- ・苗づくりから始まって、白米になるまで何か月もかかるんだね。
- ・水の管理にも気を付けているんだね。

- ・育て方はなかなか出てこないなあ。
- ・でも、流れは一緒みたい。

肥料・水・種は何を使っているんだろう。

肥料・水・種は何を使っているんだろう

- ・阿武隈川の一级河川のきれいな水を使っているんだ。
- ・病気にかかりにくい種を選んで、3月に種もみをするんだね。

- ・酒匂川のきれいな水を使っているんだ。
- ・肥料は無肥料か有機質肥料を使っているんだね。
- ・自然栽培を大事にしているんだ。

農家の方がどのような工夫や努力をしているのかに着目して考えることができるようにする。

どんなこだわりをもっているんだろう。

どんなこだわりをもっているんだろう。

- ・肥料を少なくしているんだって。
- ・農薬や除草剤を少なくしておいしくしているんだね。
- ・様子を見て肥料も変えてるんだね。

- ・無肥料か有機質肥料を使っているんだね。
- ・無農薬にこだわっているんだね。
- ・

どんな機械を使っているんだろう。

どんな機械を使っているんだろう。

- ・トラクターや田植え機、コンバインやバインダーなどの機械を使っているんだね。

- ・新潟と同様にトラクターや田植え機、コンバインやバインダーなどの機械を使っているんだね。

教科書やインターネット、本を利用して情報を集めてまとめる。(知識・技能)

- ・それぞれのお米はいろいろな工夫をしているんだね。
- ・作り方や工夫が違うから味もあんなに違ったんだね。
- ・僕は新潟の〇〇さんのコシヒカリの方が大量に作っているからいいと思った。
- ・私は小田原のお米作りの方がおいしさにこだわって作っていると感じたよ。
- ・どっちもいいと思うけど・・・
- ・どっちのお米作りの方がいいのかな？

米づくりに関わる人の工夫や努力から、米づくりに対しての自分の意見を表現することができます。(思・判・表)



対比しやすいように、模造紙に新潟産「コシヒカリ」と神奈川県「はるみ」との違いをまとめて掲示しておく。

どっちのお米づくりの方がいいのかな？(本時) ⑨⑩

新潟県産コシヒカリ	小田原市産はるみ
<p>【良さ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大量に生産できる。 ・多くの人に食べてもらえる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農薬は健康被害が出る可能性。 ・機械の値段が高い。 	<p>【良さ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・味にこだわっているところ。 ・無農薬や有機質肥料にこだわっている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大量に生産できない。 ・値段が高い。

「コシヒカリ」の農家の方に話を聞いてみたい！

「はるみ」の農家の方に話を聞いてみたい！

【良さ】

- ・たくさん生産できるため、多くの人に食べてもらえる。

【課題】

- ・高齢化で継ぐ人がなかなかいない。お米が余っている。

【思い】

- ・たくさんの人に美味しいお米を食べてほしい。

【工夫】

- ・品種改良している。・機械を導入して作業を効率よくしている。
- ・農薬を使わないことで、健康にもよく、質にこだわっている。

【良さ】

- ・世界一のレストランに使われている。

【課題】

- ・高齢化で継ぐ人がなかなかいない。・お米が余っている。
- ・農地の隣に家があり、トラブルになってしまう。土地がせまい。

【思い】

- ・たくさんの人に美味しいお米を食べてほしい。
- ・小田原のお米を全国の皆さんに知ってほしい。

米づくりの課題をどうやって解決していけばいいのかな？ ⑪⑫

- ・お米をできるだけ食べていきたい。
- ・お米を残食しない。
- ・農家の良さや楽しさを周りに伝えて、継ぐ人を増やしていけばいいんじゃないかな。
- ・はるみのことをもっと伝えていきたいな。

それぞれの米づくりの特徴を捉えながら、米づくりについて意欲的に話し合おうとする。(主体的に取り組む態度)

6 本時について

(1) 本時目標 これからの米づくりはどちらがよいかについて、これまで学習してきたそれぞれのよさや課題から考えをもち、話し合いを通して自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・表・判)

(2) 本時展開

学習活動	主な支援・留意点 ◇評価【観点】
<p style="text-align: center;">これから米づくりはどちらがよいのだろう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>新潟産「コシヒカリ」</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>神奈川産「はるみ」</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新潟産「コシヒカリ」と神奈川産「はるみ」の比較をしやすいように、模造紙でまとめたものを用意しておく。 ○ 自分の考えの場所に最初に名前磁石を貼り、自分の立場をはっきりさせる。 ○ 両者の意見を整理して書き出し、相違点を最後にベン図で可視化することで、共通する「おいしいお米を届けたい」という農家の思いに気付かせる。 ◆ これからの米づくりはどちらがよいかについて、これまで学習してきたそれぞれのよさや課題から考えをもち、話し合いを通して自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・表・判)

7 実践を終えて

【ひびき合いについて】

本時の話し合いでは、めあての「これからの米づくりはどちらがよいのだろう。」について、これまで調べてきたことを根拠に話し合いを進めることができた。最初は教師が挙手した児童を指名し、その後は子どもたちで話をつなげて進めた。普段「〇〇さんの意見に賛成です」「〇〇さんの意見に付け足しです」「〇〇さんに質問です」などといったつなぎ言葉をよく使っていることが効果的だったと考える。しかし、生産者目線と消費者目線で捉え方が異なり、子どもが混同したまま話し合いが進んでしまったので、視点を絞るか両者の目線で考えるか教師が視点を決めて声掛けをする必要があった。

【ノート指導について】

ノート指導では、前半に「コシヒカリとはるみはどのように作られているのだろうか？」という疑問から、気候や育て方、こだわりなどのテーマ別にグループに分かれて調べ、それをスライドにまとめた。まとめ方についても、教師が机間巡視をしていきながら、「調べたことのコピー&ペーストではなく、意味を理解した上で説明できるようにしておくこと」「スライドならではの工夫として、写真や図、動画を取り入れるなど、聞き手に分かりやすいスライドを作ること」を伝えた。子どもたちはそれを受けて、分からない語句を調べて追記したり、図表と端的な説明をスライドに入れたりするなどして、第三者からの目線でスライドを見て意見を出し合い、協力して調べている様子が見られた。

後半の学習では、本時の課題「これからの米づくりはどちらがよいのだろう。」についての自分の考えをノートに書くことで、これまでの調べた内容を根拠に書き出し、全体共有をする場でも自信をもって発言をする様子が見られた。

【成果と課題】

成果として、新潟県産コシヒカリと小田原産はるみについて詳しく調べることができていたので、両者のよさや課題を伝え合うことができていた。それぞれのグループでの発表を共有できているので、話し合いの中でも

同じ知識を持った状態でスムーズに話し合いが進められた。

今回の課題として、二つ挙げられる。まず、本時のめあてを教師から投げかけたので、めあてへの切実感が薄かった。導入の食べ比べから疑問をつくっていったように、本時のめあてもこれまでの学習の振り返りや発言から、子どもの言葉でめあてを作っていくべきだった。二つ目は、立ち止まって考える時間を作ることである。話し合いが止まらず思うままに進んでいたため、コシヒカリとはるみの生産量や農家の人口など、立ち戻れるデータやグラフを用意して、立ち止まって話し合えるとより深く話し合いができていたと考える。これからは、子どもの言葉で単元を貫き、より深い話し合いをできるように手だてを作っていきたい。

6/27 社会「米づくりのさかんな地域」

これからの米づくりはどちらがよいだろう

学習問題

これからの小田原の米づくりは
どうしていけばよいのか。

それぞれの米づくりの特色や生産者の
工夫について角^ろ的に考え話し合い。
生産者の思いや情熱に気づく

○これまでの学習から、よさや課題を
くわしく調べた。 言っていた。

○自分の考えを伝えようとする意欲◎

○めあてへの切実感が少なかった。

○めあての捉え方がそれぞれちがっていた。
生産者・消費者

○話し合いが止まらず進んでいた。

○ふり返しや発言から、子どもの言葉
でめあてをつくる。

○立ち止まるデータ・グラフを用意する
生産量・人口

○立ち止まって考える話し合いの時間
をつくる

ひびき合い